

非常用発電設備



こんにちは、ギコンくんです。このコーナーでは、特許庁での気になるトピックを紹介しています。今回は、停電対策にまつわる話をお届けします。



「コレじいさん、質問です！この前の回で災害対策の話になっていましたが、災害で停電になっちゃっても特許庁は大丈夫なのですか？」

むむむ、いいところに気がついたな、ギコンくん。電子システムが組織の心臓になっている特許庁では、停電は大問題じゃ！そんなときのために、ガスタービン発電機からなる非常用発電設備を備えておるのじゃよ。

「パテッ！そんなものがあるんですか?! 初耳です！どこにあるんですか？」

ほっほっほ、ギコンくんが知らないのも無理はなからう。何せ、普段はあまり職員が立ち入ることのない場所にあるのじゃからな。

これが、ガスタービン発電機じゃ。どうじゃ、凄かろう！このガスタービン発電機は、航空用ジェットエンジンと同じ構造になっておって、重油を燃料にして動いておるのじゃ。



ガスタービン発電機

タンクには合計72,000リットルの重油が蓄えられておって、全系統なら約27時間、受付系サーバーやライフライン系にしぼれば約47時間の稼働が可能になっておる。

「わぁ～、かっこいいですね、コレじいさん！でも、災害の混乱の中で動かすのを忘れてしまったりしないかなあ。。」

心配ご無用じゃ！この設備は、停電を検出すると自動的に稼働することになっておる。ただ、稼働するまでに40秒ほど時間がかかって、その間はこのバッテリー室にある蓄電池で、電力を持たさないといかんがな。万が一、サーバーのデータが消えてしまったら大変じゃからのう。



バッテリー室

「わぁ～！これだけ二重三重に備えていれば、災害が来ても安心ですね！」

停電がおきるような災害が来ても、この設備を使って、出願人のために一刻も早く出願の受付や審査を再開したいものじゃ。ただ、災害の時は何が起こるか分からんからの。大切なのは、一人一人の意識と日頃からの備えじゃ！

「はい！そうですね！公式マスコットに向けて災害への備えも頑張ります！あ、安否確認の訓練メールがスマホにきたから報告しないと！」

(ギコンくん、スマホ持っておったのが。。)

(文：特技懇編集委員会)

